

書評

医療統計解析使いこなし実践ガイド 臨床研究で迷わないQ & A

対馬栄輝(編)

A5判・254頁

定価：本体2,800円＋税

羊土社刊，2020年



[評者] 山田 実 筑波大学人間系

「すぐに自分の講義で使用したい」、本書を拝見したときの第一印象です。大学院で統計学の講義を担当していると、毎年、学生からは決まって同じような質問が寄せられます。つまり、研究初学者が『統計学』を学ぶ際に疑問に思う点、理解に難渋する点、興味を抱く点はほぼ固定されており、われわれ講義担当者には、それらの点についてわかりやすく解説することが求められています。しかし、専門書に記載されてある内容を咀嚼して、わかりやすくかつシンプルに伝達するということは決して容易ではありません。本書には、このような学生から寄せられる質問(Q)がほぼそのままの形で記載されており、それに対応する解説(A)が一問一答形式の平易な表現でまとめられています。月並みな表現になってしまいますが、本書にはまさに『目から鱗』の

情報が満載で、「講義で活用したい」、「学生・研究初学者にぜひ読んでもらいたい」、そう思えた一冊です。

『統計学≠難しい』という印象が強く、『統計』と聞いただけで拒絶反応を起こす方も少なくないのではないのでしょうか。しかし、『エビデンス』という用語が日常的に用いられるようになった現在の医療現場では、研究論文を読み・書きする必要性が生じ、どうしても『苦手な(嫌いな)統計』と向き合わざるを得ない日が訪れてしまいます。そのようなときに、手に取っていただきたいのが本書です。『統計学≠難しい』から『統計学≠やれるかも』に変換してくれる、そのような役割を果たしてくれると思います。

まとめ方が秀逸で、読者の心理をうまくとらえた内容になっています。本書は、基礎編と実践編より

なる14講、そしてリアルな87のQ & Aによって構成されています。各講にはそれぞれポイントとステップが示されており、重要なポイントや歩むべきステップが明確です。そして、実践編では論文での記載例が示されており、初学者がつまづきやすいまとめ方についてもイメージしやすい構成になっています。

編者の対馬先生が“はじめに”で『臨床データ解析学』という用語を用いられているように、本書は『統計』よりも『統計解析』を重視した内容となっています。難しい数式や用語に拒否反応を示してしまう、そんな読者の心理を適切に把握し、なじみのある用語や表現を用いて魅力的に『統計解析学』を紹介しています。学生、臨床家、研究初学者、研究実践家など、さまざまな立場の方にぜひ一読をお勧めします。